

## 平成 24 年度放射線安全取扱部会年次大会へのお誘い —念ずれば花ひらき，山笑う松山へ—



平成 24 年度放射線安全取扱部会  
年次大会実行委員長

中島 覚

1年近く企画を検討してまいりました年次大会の準備が整い、お誘いのご案内をします。本年度は、11月8日(木)、9日(金)に松山市総合コミュニティセンターで開催いたします。

ご存知のように、昨年は、東北支部が担当され、東日本大震災の影響を受けた中で大変すばらしい年次大会を開催されました。緊張感を持って開催された前回の大会を、今回どのように引き継いで開催すべきかを考えることは、震災の影響を直接には受けていない私たち中国・四国支部の実行委員に今回の大会へ真摯に向き合わせることになりました。しかし、それと同時に私たちの発想をがんじがらめにしてしまうことにもなりました。

東北支部の私たちの仲間は、大変厳しい中、本務である自身の放射線施設の管理にとどまらず、一般の方々のために大変尽力をされております。その中で東北大学の山崎浩道先生が4月8日に逝去されました。東日本大震災で命を落とされた方はもちろん残念ですが、その復興に向けて学内のみならず、学外においても休むことなく働いていた方がなくなるのは、比較できることではありませんが大変悲しいことであります。震災以降、様々な会議で何回かお会いしたときの温厚な姿を思い起こすと、何を考えてよいのか分からなくなります。

このようなことがあり、本年度の年次大会の企画では、最初は福島第一原子力発電所事故に

とらわれすぎておりましたし、中国・四国支部としてできることはあるのかとも考えておりました。

そのような折、出張の帰りに機内番組で、子規の“故郷やどちらを見ても山笑う”を知りました。“山笑う”は春の季語ですが、春の山は笑っているようで心が和みます。この句を知ったおかげで、心持ちを穏やかにして年次大会の準備ができるようになりました。有意義な内容の年次大会にしたいと思いますが、それと同時に温暖な松山市や瀬戸内も楽しんでいただければと思えるようになりました。

メインテーマは、坂村真民の“念ずれば花ひらく”としました。私たち部会員の福島第一原子力発電所事故からの復興への思いが1つになるような年次大会にしたいと思います。また、一般の方への放射線教育など、私たちの部会が社会に貢献できることを探りたいと思います。さらに、私たちの放射線施設の将来を考えるに当たり分子イメージングは重要なキーワードとなりますので、これに関するシンポジウムも開きます。

広島市でも岡山市でもなく松山市で開催することは、私たちの部会活動がより草の根的に広がっていくことに繋がるという思いもあります。ぜひ、ご出席いただき、松山市、瀬戸内をお楽しみください。

(広島大学自然科学研究支援開発センター)